

常任委員会

報告

平成19年度決算の内容について、各常任委員会ごとにさまざまな角度から検討し、活発な質疑が行われました。

建設経済常任委員会

林道の整備は地元の方の協力を

林道の維持管理費として、約400万円の予算が執行されています。生活道路として利用されている林道もあることから、草刈りなどの維持管理に地元の方の協力が得られるよう、積極的な呼びかけを要望します。

やすらぎの里の運営は厳しい状況

利用者減少に伴う厳しい運営状況の中、市内外からの利用者の増加を図るとともに、経費削減に努めるよう要望します。

2事業会計に収入未済額

農業集落排水事業特別会計・公共下水道事業特別

会計で収入未済額がありますが、不納欠損処分とならないよう、徴収事務に努めるとともに、将来財政を圧迫させる懸念がある公共下水道事業は、全体計画を早急に見直すことを強く要望します。

なお、水道事業会計については、市の集中改革プランに取り組んでいますが、今後も維持管理に努め、さらなる経営健全化を要望します。

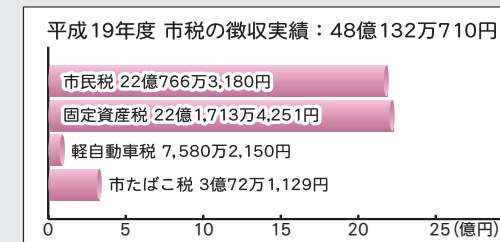


紫尾川・酒寄地区の災害現場は一部復旧しましたが、早期の完全復旧と再発防止策を要望しました。

総務常任委員会

歳入

主に税収の確保について質疑が出されました。税源移譲により、市民税の調定が昨年度より約4億7,160万円ほど増加しているにもかかわらず、徴収率は前年度比3.1%アップの89.3%でした。このことは、職員による一斉滞納整理等の成果であり、今後とも公平性確保の観点から一層の努力を要望します。また不納欠損については、制度の趣旨を踏まえ、今後も市民に対する公平性の確保を図りながら対応するよう要望します。



歳出

まず、議会費について「常任委員会活動負担金、議員研修負担金等、精力的な議員活動ができるような予算編成を行ってほしい」という意見がありました。行政区の規模については、合併して3年がたとうとしている中、行政区の戸数がまちまちであると思われます。「今後、見直しや整理統合、人口規模に見合った行政区のあり方を調査してほしい」との意見が、また評価がえの業務は、「市内全域において適正な評価と土地の利用状況等を把握して、公平な税の賦課に努めてもらいたい」という意見がありました。監査委員についても監査機能の充実を図る観点から、「専門的な知識のある公認会計士や税理士を入れた3名体制で行ったほうがいい」という意見がありました。

豊かな体験活動推進事業の普及を

豊かな体験活動推進事業は、児童・生徒にとって大変有意義な事業だと思われます。今後は、事業効果を市内の小中学校に普及させるよう、努めてほしいと考えます。

給食費、負担増にならないことを要望

南学校給食センターの増改築を視野に入れた中で、経費削減を図り、小中学校適正規模等検討委員会において、早急に協議することを要望しました。また、原材料費が値上げしているため、経費節減に努め、保護者の負担増にならないように要望します。

伝統的建造物群保存地区の指定に向けて

住民と連携し、早急に伝統的建造物群保存地区の指定の推進に向け、協議することを要望しました。

文教常任委員会

温水プール、指定管理者制度の導入を

原油高騰の中、経費削減を考慮しつつ、指定管理者制度の導入に向けた条例等の整備を要望しました。



9月17日、大和中学校建設現場と樺穂小学校体育館を視察しました。

防犯灯は必要性を重視して

各行政区からの申請にかかわらず、防犯灯が必要な暗い場所には、優先的に設置するよう要望します。

し尿処理料金に格差、地区割りの撤廃を要望

地区割りにより、し尿処理料金に格差が生じているため、地区割りを撤廃するよう要望します。

乳児一般健診の受診率について

受診率は、他市町村とも1回目の3～5ヵ月児は比較的よいものの、2回目の9～11ヵ月児では、1歳児健診を控えていることや、母親の復職等で低くなるなどのことでした。今後も受診率の向上及び定着に努めるよう要望しました。なお、麻しん・風しん混合ワクチンの接種率は、98.6%と県の平均以上のことです。

福祉環境常任委員会

家族介護者への支援の充実を

国民健康保険は誰もが安心して医療が受けられる医療保険制度の基本であり、医療費の適正化等健全運営を図ることや、介護保険では認知症対応の地域密着型サービスや高額介護サービス費等について説明を受け、家族介護者に対して、支援の充実を図るよう要望しました。



9月18日、真壁小学校に設置している学童保育クラブを視察しました。